

友人(山崎恵美子さん)と

私のふるさと訪問

利用者 立町 龍夫



昨年九月、園長先生の討らいで、私達二人と、重藤指導員さん、山崎さんの担当である首藤寮母さんの四人で、ふるさとである北条市へ久しぶりの里帰りをする事が出来ました。

まず山崎さんは、この度、御主人が御高齡の為に菊間の老人ホームへ入所された様子を心配され、十二年振りに北条市の土をふむ事になりました。そして御主人の元気な姿に安心された後、自宅にも立ち寄られ、懐かしい我家の前で、記念撮影をされました。続いて私は、六年振りの帰省となりました。家内と、隣近所、五、六人の人達の思いがけず嬉しい出迎えを受け、その後、懐かしく楽しい二時間余りを過ごす事が出来ました。

一番驚いた事は、福招の木等、私の留守の間に、大きく、そしてたくましく立派に成長したのを見られた事でした。その楽しい時間もアツという間に過ぎ、いよいよ帰路につく事になりましたが、今度はいつ帰れる事になるかと思ひ、見送ってくれる方々を振り返り振り返りして帰りました。

園長先生、重藤指導員さん、首藤さん、楽しい一日を、本当に有難うございました。皆さんお元気で。



八年振りのふる里訪問

寮母 高橋 ノリエ

昨年八月、田坂さんより大三島に帰ってみたいと申し出があり、明石の弟嫁さんと娘さんにも協力をお願いしました。

十月三十一日、田坂さん、梶原さん、重藤指導員さん、私の四名で出発し、今治港にて明石の御家族と合流しました。田坂さんは、生家に帰るのは八年振りです。海見える山手にある生家へは、急な坂道の為、田坂さんと車椅子を別々にかつぎ上げ、やっとの思いで登る事が出来ました。お世話になっていた小笠原静子さんとは手を取り合っただけの涙の対面です。又、近所のエミ子さんも足元の悪い所を来て下さり、沢山の心付けを下さいました。

「ふるさは、遠くにありて 思ふもの」とありますが、誰もが思っていないもなかなかふる里へは帰れません。この度のふる里訪問が田坂さんの良き想い出になる事を祈る気持ちです。

ふる里訪問を実現させて頂きました御家族、三恵ホームの職員の皆さんの御協力に心より感謝申し上げます。

重藤さん、お疲れ様でした。

